

令和元年度 第2回飯田市公民館運営審議会記録

- ◇日時 令和2年3月23日(月) 10:00~12:00
- ◇会場 飯田市公民館4階 研修・視聴覚室
- ◇出席者 (委員) 長谷部会長、細山副会長、森本委員、石黒委員、桑原委員
宮下委員、木下委員、鳴海委員
(欠席委員) 福田委員、塩澤委員、武分委員、増田委員、松下委員、勝野委員
(事務局) 塩澤館長(飯田市公民館長) 渡邊館長(館長会副会長)、
秦野副館長、氏原副館長補佐兼学習支援係長、木下管理係長、片岡主事

1 開 会

2 会長あいさつ

おはようございます。コロナという言葉が世界を席卷し、まさに世界大戦の様相をなしておりますが、特に今の季節は、卒業式とか入学式とか教育委員会が関係する各種の事業があのような形で行われている。私どもの集落でもお祭りの直会が中止になっており、様々なところに影響がありますが、中止はそれでたまたま見直しをするのにはいい機会というようなこともあるかも知れないけれども、延期となれば、ずっと向こうへ行ってスタートしたらどうなるのかなあ、という状況の中で本日が来ておりますが、今日は今年度の最後の審議会として、今までの成果についてそれぞれのご意見をいただいて、質問に答えられたらな、このように思っております。よろしくお願いいたします。

3 飯田市公民館長あいさつ

改めまして、おはようございます。いつも大変お世話様になります。今会長さんからお話しいただきましたけれども、今年一年を振り返ってみますと、結構中止にするか延期にするかというところで悩んだことが多々ありました。運動会がそうですし、スポーツ大会もそうでしたし、今回のコロナ、と言われて、まとめの時期の大事な企画をいくつか中止するということになりました。そのときに思ったことは、館長一人が「こうやるぞ、ああやるぞ」ということじゃなくて、委員の皆さんたちに必要な情報を用意してお届けして、「どうする?」「やっぱ無理だら〜」「そいじゃあ、ちょっと今回はやめとくかあ」という決断ができればいいのかなと構えてました。見返しをしたときに、新しい種目で段ボールを4つ積み重ねてそれを運ぶというものを考えていたのですが、「あの風だと段ボールみんな飛んじゃうぞ」「重石を入れんとだめだな、あれは」というようなことが出てきたりして、中止もなかなか良かったかなとか、思っています。

もうひとつ、コミュニティスクール設置から3年経ちましたが、それぞれの地区でいろんな工夫をしながら協働ということに取り組んできたかなと思っています。また詳しくは後でお話させていただきたいと思いますが、その点でも、「地域の子どもは地域で育てる」ということを、住民の皆さん方が心をそろえてくれたかな、と思っています。いろいろな報告をさせてい

たゞきますけれども、忌憚のないご意見を頂戴しまして、また来年組み立てていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

4 審議事項

(1) 令和元年度の飯田市民館活動の報告

(副館長)

それでは一括してご説明差し上げたいと思ひます。資料1をご覧ください。別冊になります、「飯田コミュニティスクール令和元年度実践報告書」でございます。これは、学校教育課に配属されておりますコミュニティスクールを担当する専門幹が中心に取りまとめておりますが、市民館サイドから見るとかなり学校寄りのように見えるものになるかもしれませんけれども、学校運営協議会の事務局をやっております学校側がまとめたものです。コミュニティスクールも4年目を迎え、目指す子ども像に向かって地域と学校がそれぞれ何を行うかを考えながら活動していこうということで、今年度後半から教育委員会としても取り組んで来ております。色々な取組みがありますがけれども、特に座光寺地区が、文部科学省の大臣表彰を受けることができました。「座光寺の子どもを語る会」ということで、学校と地域と家庭が子どもを育てるために長年取り組んできたことに対して、大臣表彰を受けたということで、評価されてきたところでございます。

資料No. 1-2の「飯田コミュニティスクール推進事業」を新設しました。先週の議会で承認されましたので、正式に237万7千円の予算で「飯田コミュニティスクール推進事業」が実施できます。その中心となる事業ですけれども、今まで地域学校協働活動と呼んでいた活動を、飯田としては「飯田コミュニティスクール協働活動」と呼んで積極的に推進していこうと考えており、協働活動のモデル的な事業に対して支援をしていく事業を立ち上げます。これは、先ほどお話をさせていただきました「目指す子ども像」を学校運営協議会で共有をし、その「目指す子ども像」に向かって、地域・学校・家庭が協働して行う活動に対して、金銭的な支援をしようという事業です。実際は、これから活動の申請を受付け、モデル的な事業と考えられるものに対してその事務局になる市民館に予算を配分するという形で進めていきたいと考えております。

そのほか、まだまだコミュニティスクールがわからないというようなご意見も、結構多く寄せられることもありますので、この周知を図っていくという事で、情報発信のリーフレットを学校教育課で作成をしております。学校運営協議会の中で学校が示す目指す子ども像を、地域と学校と家庭で共有し、地域、学校、家庭は、それぞれが何をするかということ話し合っ、共有していく場として学校運営協議会を充実させていきたいと考えており、昨年度後半から、学校に対して市民館でもそういう動きをしているという事になっております。

続いて地域人教育でありますけれども、これは(イ)高校生等次世代育成事業、資料No. 2でございます。市民館の事業名としては高校生等次世代育成事業というのが、大きな枠の事業名になります。この中に、いわゆる飯田OIDE長姫高校を中心とした地域人教育と、社会教育側で高校生の学びを支えていくという高校生講座「カンボジア・スタディツアー」が一緒の事業となっていますが、今回用意させていただいたのは、「地域人教育の年間のまとめ集」というこ

とで、資料 No. 2-1 ということで、用意をさせていただいております。A3 二つ折りの高校生と地域住民との学び合いというのは、この「年間まとめ集」を作って、作成をしております主事の集団で作りました地域人教育の概要ということで作成をさせていただいております。

これを説明する前にお知らせをいたします。今年度の高校生講座「カンボジア・スタディツアー」ですが、10 月から高校生たちがこの地域を学んで、カンボジアへ行く準備をしてきたのですが、コロナウィルスとの関係があり、夏休みに延期をさせていただいております。中止ではなくて延期にはさせていただいておりますけれども、今後どのような動きになっていくのか、今注視をしております。

資料 2-1 の P2 今年度の地域人教育は、橋北、橋南、東野、座光寺、松尾、竜丘、鼎と、テーマ型という事で、市公の主事と社会教育コーディネーターが担当して公民館が関わらせていただいております。最近いろんなところで取り上げられますので、ご存知の方も多いかとは思いますが、公民館主事が OIDE 長姫高校の 3 年生の毎週金曜日の午後の授業に参加をし、生徒たちと一緒に地域を学んで、その地域の課題の解決というのを考えるというのが中心になった授業になっております。やはり地域の皆さんと活動するという事で、子どもたちの成長は著しいものだという事は、言われているのですが、私どもの課題としては、これまでの成果を普通高校へどう展開していくかが、今年度の大きな課題になっております。このまとめを見ていただきますと、普通高校はどうしても進学が目的でありますので、そのままこの専門高校のやり方を普通高校へ導入するという事はできませんので、そこを考えていくというのが大きな課題の一つになります。一つの答えとして、飯田女子高等学校進学コースに「探究のクラス」を作ってありまして、従来の進学コースとは別のコースとして進学コースの中に探究コースが設定されています。そのほかに、特別活動いわゆるクラブ活動の時間を、探究の時間にあてるという形にして、普通高校の中では探究の学びを導入するというような取り組みをしておりますので、その支援等を私どもがさせていただいているというところであります。あとは風越高校や飯田高校が、生徒各々で探究学習をしているので、要請があればお手伝いをしてるところはありますけれども、まだまだ学校全体として関わるといのは普通高校の場合ですと、女子高だけというようなどころではあります。

もうひとつの取り組みとして、主事会の青年層プロジェクトのメンバーが中心となって、飯田コア学園のコアカレッジの生徒をひさかた和紙保存会とつなげ、生徒と地域をつなぐことを行いました。地域人教育につきましては、今後どのように他の高校へと広げていくか等、課題としておりますし、今年度の 10 月から、文部科学省から赴任してきました青木参事が来年 4 月 1 日から生涯学習スポーツ課長と参事を兼ねるとい形になって、幼稚園から高校までの一貫したカリキュラムを編成するという計画になっておりますので、地域人教育も、その中へ取り込まれた形で考え方を整理していこうとしております。

(長谷部会長)

今までのところで皆さんのご意見を。(ウ)と(エ)はあとにすることとして、今のコミュニティスクールと次世代の育成事業について、この(ア)と(イ)についてご意見を承りたい、と思います。質問も結構です。

資料 1-2 のところにある予算額、予算が示されている。例えばコミュニティスクールの場合

は200万ということになるんですけども、この予算は地域に配分はされますか？

(副館長)

全予算のうちの53万円は各地区へ配分し、残りの予算については、これから事業を募集し、教育委員会で審査をしてモデル事業として新たにその地区公民館へ加配をします。

(長谷部会長)

地域人教育の場合もそういう配分があるということですか？

(副館長)

地域人教育の場合は、そういう配分はないです。

(長谷部会長)

それはその地区で、ということですか。

(副館長)

市公民館で80万円の地域人教育の予算を持っており、申請するというよりも、地域と相談の上、支出するという形にしております。

(鳴海委員)

コミュニティスクールのことで、お話をさせていただきたいんですが、先日、学校運営協議会が開かれたんですが、その中の一年の総括で、コミュニティスクールの件で、龍江の主事さんが、まあ一年目なんですけれども、就任に当たってはちょっと大変だったところもあるんですが、教頭先生から「非常に、～主事さんの活躍で嬉しかった。」とあり、主事さんの活躍というのはコミュニティスクールの中で、大変大きい力となっていると感じました。

(長谷部会長)

ほかにありますか。

では(ウ)と(エ)の公民館大会と、館長・主事会の報告をお願いします。

(副館長)

飯田市公民館大会です。資料No.3をご覧ください。公民館大会につきましては皆さんご参加をいただいておりますので、ご自由にご意見をいただければと思っておりますけれども、今年の私どもの基調講演を岩本さんの、それこそNHKの「逆転人生」という番組でも出たので、ご存知の方多いかと思っておりますけれども、東京といいますか首都圏で仕事をされていて、それで島根県の海士町の高校の魅力化というのに取り組んだ、という方であります。島根県は非常に公民館活動が盛んです。そのようなところも、共通点かなあというところもあるんですけども、地域が子どもや生徒を支えるという、それをしっかり取り組んでいたと、いうところであります。なぜ岩本さんだったかというところなんですけれども、岩本さんが最後にお話をしていただいた中に、「いろんな取り組みをしてるけれども、地域にある学びの土壌、っていうものがしっかりしていないと、それができない。そこをきちんとしていく事が大事だ」とメッセージを発信しています。私どもとしては、後世を支え、地域の担い手を支えるという大切な部分での学び、社会教育を改めて確認をしていただく貴重な講演になれば、というふうに組み立てたものであります。後半の分科会等については、館長と主事が各分科会を担当し、何回も集まって組み立てました。まとめをご用意させていただきますので、ご意見をいただければと思います。

館長会と主事会の報告は、この資料の3ページと4ページについております。今年の活動方針は、特に研修のテーマということで、「これからの公民館・社会教育と館長の役割～大人の学びと子どもの育ちをつなげる～」ということで、「学校と協働の取組を通じて」、ということで一年間、館長会を進めてきました。5月から7月までの研修は、新任の館長さんもいらっしゃる時期でありますので、5月には「公民館の基礎知識」、6月7月は「コミュニティスクール」を研修して、7月には教頭会とも懇談をいたしました。9月は「成人式の在り方」の研修をしております、後は様々な部分で、ブロックごとに特色ある活動をみながら研修を進めているということでもあります。主事会は、毎月1回行ってきております。主事の研鑽とともに、20地区それぞれに配置をされて業務を行うにあたって、相談したり高め合ったりしています。(長谷部会長)

公民館大会の参加者の数が550人。この参加者と一般来賓等含めるとそのくらいになるのですね？

(副館長)

そうです。その参加数になります。

(長谷部会長)

すごい量だなあ。かつての公民館大会で、こんなに人は集まらなかった。社会教育課長が、公民館がいっぱいにならないと心配した時期があったころに比べると、500人という人が来るという事はムトスと一緒になるということが多くなるということですか？

(副館長)

それもありますけれども、でも400人くらいは、公民館関係者だと思いますので、かなりダブってはいます。

(長谷部会長)

すごい数と思うけれども、要するに57回もこういう大会が続けられて、やっているというのは県の中でも少ないんじゃないですか？

(副館長)

そうですね。単独でやっているところは少なくなっていると思います。

(長谷部会長)

公民館の専門委員会や分館とかがあり、だいたい4000人の人が地域活動に何らかの形で関わっているのは飯田の特徴だからずっと続いているのじゃないかな。よその地区にその専門委員会で関わったりする人が少なく、そこに職員がいて講座開いてきた人が勉強会するっていうけれども、飯田の場合は、その人達が事業を作り上げていくことがこの人数の多さのもとになっているんじゃないかと思うんだけどいかがであります？

(副館長)

皆さんのほうが経験豊富なので、どうでしょうか？私も20年前に鼎で地区の主事をさせていただいたんですけども、その当時の公民館大会はこんなに人はいなかったと思います。今は、基調講演は500人のホールに入りきれないので、2階の会議室に中継を送って、画像を中継してそこで、観ていただいていると。

(桑原委員)

あそこもいっぱいだった。

(副館長)

今はそういう状態です。以前と大きく異なっているなあ、と思うのは館長と主事で分科会を担当しているというところが大きいのかなと。私たちの時は、どちらかという公民館大会というのは、全部市公が、市の公民館が全部段取りをして、そこへまあ、記録だとか司会というような形で、入って行っていたというイメージでしたけれども、今は分科会立ち上げるまでに、館長さんたちだけでも5～6回集まってやっている、そういうのも大きいかなあと思います。自分たちでつくりあげる分科会であるので、委員さんたちにしっかり声をかけていただいているのかなと私は感じております。実際、過去の参加人数を見ると、48回時にはまだ400人くらいで、56回でこの8回間に150人くらい増えてると、いうことになりますので。

(桑原委員)

ムトスの関係で司会、進行してるので最近感じるのは、問題意識を持っている人たちがすごく増えたような気がします。以前の公民館大会は、まあやってるから、そこに地域からこう言われたから集まったような方が多かった感じするんですけども、今例えば分科会をやっているときに、そこで実際にその地域で取り組んでいる人たちの問題意識っていうか、「いやこれでちょっと困っているんだよね。」みたいなものを持っている人たちが結構多いという気もします。そんな中で、各分科会にゲストスピーカーというか、そんな形で話に来ている人たちに、やっぱり訊いてみたいという興味を持ってるような人たちが、特に長姫なんかもそうですけれども、子どもたちが一体どんなことを考えているかみたいなことを取り上げるようなことになって、そこらへんに興味を持ちながら来ている人たちも多いんじゃないかな。ムトスでも、いる人たちの目つきがかなりこう鋭くなっているというか、そういう感じはしました。

(長谷部会長)

館長主事会の報告にいきます。何かありますか？

(鳴海委員)

公民館大会ですが、自分も何回か公民館大会に出させてもらってるんですが、今年は岩本さんの講演が非常に良かったんですが、その後、地域人教育をやってる高校生と、それから卒業生もステージに上がってもらって意見を述べられたっていうのは非常に良かったと思いました。分科会は、これまで参加した人たちが話ができる時間が非常に少なくて、欲求不満でいつも帰るといった状況だったんですが、今回はだいぶ工夫されたのか、すごく参加者たちが話ができる時間をもっと割いてくれて、今まで以上に充実した公民館大会になったなと感じております。

(長谷部会長)

館長主事会の事がなければ次に移ります。よろしいですか？館長さん、何かありますか？

(塩澤館長)

先ほど6回の事前の話をして、というお話ありましたけれども、実は館長だけではなくて、館長と主事の皆さんとが、それこそ5つの分科会を担当しますので、一回につき2時間くらいずつ、あーでもないこうでもないという話を事前の打合せでします。そこで、最初に話をするのが、参加してくださった方たちに何を持ち帰ってもらおうのかっていうところに、結構時間を

費やすんですね。自分たちが企画しているからこそ、その企画に対して皆さんが本当に真剣に取り組んでくださって、「あーじゃあ、明日からこういうことができるかな、こういうことで何を持ち帰ってもらえるか」ということをすごく熱を帯びて話をするんですが、そうすると普段あんまり考えたことがないようなアイデアを主事さんたちがくれたりとか、6回の会議が非常に楽しい。そんな印象を持っています。だからもう公民館大会になるともう、なんていうのかな、ちょっと口幅ったいふうに言うとうまくいってあたりまえみたいな。そういうところがあって。だから、例えば私の分科会の中で分散会をやるんですが、私ほとんどしゃべらなくても、他の方たちがどんどん話をして下さる。「あー面白かったね。」って帰ってくださる。そういう雰囲気が公民館大会の中に生まれてきてるのかな、と思っています。ありがとうございます。

(長谷部会長)

館長会・主事会と一緒に会議するっていうのは、どう思っていますか？

(塩澤館長)

あまり普段の中ではないんですね。合同の研修会みたいなことはやりますけれども、例えばコミュニティスクールについての研修会みたいなことはやるんですが、本当に膝附合わせて話をするっていう機会があんまりないので、貴重な機会ですね。

(桑原委員)

それにしてもコロナウィルスも滑り込みでしたね。次の週だと全部禁止になってる。絶対だめだと。

(2) 成年年齢の引き下げに伴う成人式の開催について

(長谷部会長)

では、(ウ)と(エ)は以上として、(2)の「成年年齢の引き下げに伴う成人式の開催について」市公から。

(副館長)

では5ページお願いします。以前の公運審でもですね、2度ご意見をいただいております。公運審の皆さんのご意見としては、「ハタチ、そのままいいじゃないか」とそういうふうには私は捉えておったわけですが、館長会・主事会ともですね、協議を進めていく中で、この資料のような形でまとめをさせていただいて、今後教育委員会で諮りながら、飯田市全体の考え方として進めていきたいと考えております。公運審で2度じっくり協議をしていただいておりますので、多く説明いたしませんけれども、2番のところでございます。2022年からの成人式、成人を祝う式典については、公民館の提案としては、対象年齢は、今まで通り20歳の年度を対象とするという事です。開催日も成人式の前日、開催については小中学校の学校区で開催するという事です。私どもはやはり公民館として行っていく事の一番大事な事としては、新成人の学習の機会として成人式を大切にしていきたいと、いうことでありますので、現在の20歳で行っていく部分としてはいいだろうということでございます。名称については今「成人式」とさせていただいており、私どもとしては、そのように進めていきたいと思っておりますけれども、民法上の成年というのは18歳になりますので、ここを成人式という形です

るかどうかというのは、要検討という形にはさせていただいておりますが、公民館としては成人式という形で進めていきたいと思っております。公民館が考える成人式の意義という事で、3番の考え方というところに、(1)(2)(3)というふうに書かせていただいておりますけれども、このような意義をもって進めていく機会だというふうに、させていただきたいと思っております。

(3)番には各地区からだされた意見をまとめさせていただいております。その他成人式に付随して出された意見という事で、18歳に引き下げられるということに伴っての成年学習、権利義務等については、成年になる前に行っていくという事が必要だというお話。それに対してですね、社会教育の担える部分につきましては、公民館が具体的にできる事を今後検討し、高校と連携して行うというようなことを考えていきたいと思っております。公民館としては、18歳になる段階で、成人の節目となるということ自体は何らかのアクションを起こす必要があるんじゃないかと、ということも意見としてまとめさせていただくところでございます。成人式については、従来通りの形で行っていききたいというのが最終的な結論という事で、今後調整を図っていききたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(長谷部会長)

18歳で成人だけれども、飯田では従来通り、20歳をもって成人式とするという方向であります。そういう中で、成人式の前日とするという理由は何ですか？

(副館長)

成人の日がハッピーマンデー法で月曜日になるようになったというところで、成人該当者が少しでも出席されやすいように次の日が休みであれば思う存分交流できるかというのが大きな理由です。月曜日は出初式となっていて日曜日は成人式というような形でさせていただいている理由となります。

(長谷部会長)

翌日が休みだという事で。

(副館長)

東京や名古屋、首都圏だとかこの飯田から出ている対象者が帰ってきたときに、出やすいように、次の日にお休みのほうが出やすいだろうと、そういう判断であります。

(長谷部会長)

皆さんのご意見いかがですか？飯田全体でやったらどうだ？という意見はありませんか？飯田市全体で一か所でやったらという意見はないですか？

(副館長)

今のところはないですね。飯田市全体から地区分散会になったときの主事が私だったので、その当時の経過も存じ上げていますが、地域の人達が、地域で育った子どもたちをお祝いするというのが一番自然だろうと。市にまとめてしまうと、意義がよく分からなくなってしまうかと考えております。

(細山委員)

何人から何人くらいなんですか？地域で参加する生徒は、少ないところもあるでしょうが。

(副館長)

どうでしょう、5人か6人という単位から、200人から150～160人までというところですか。南信濃と上村、合同でやっても10人くらい、そこが一番少ないくらいになりますかね。その代わり小さい地区のほうが出席率が高いです。

(長谷部会長)

じゃあ、成人式の事については、従来通りのことを踏襲するという方針でいいということで。よろしゅうございますか？

(木下委員)

名称は、要検討ということで書かれているんですけども、前の「成人式」というのではなくて、まさにそれは検討中という事で。

(副館長)

そうですね。そのままで行きたいとは思っておりますけれども。どうでしょう？いかがでしょう、みなさん。

(石黒委員)

まだ始まるばかりで、18歳で成人という認識がないので、数年経っての成人式でもよいのでしょうか。ここ数年は成人式とし、その後は名称を変えるということもよいのではないのでしょうか。

(副館長)

自治体によっては「青年の集い」にするというところもあります。

(長谷部会長)

成人式はここまでとします。令和2年度飯田市公民館基本方針・計画について、お願いします。

(3) 令和2年度飯田市公民館基本方針・計画について

(副館長)

P6、p7をまずご覧いただきたいと思います。去年までは重点目標を細かいことまで記載をさせていただいておりました。今回、基本方針というものは飯田市公民館が、ずっと大事にしてきたものであって、公民館に関わる人たちに一番押さえてもらいたいのは、この基本方針の部分であり、大きく変わっていく事はないだろうということで、ここはまず独立させてしましましょうと、いう形でレイアウトを組んであります。4番の最後の「4つの運営原則に基づく主体的な公民館活動の展開に向けて」というところまでが、年を経ても変わる事のない公民館の中心的な考え方であり、まず前面にこの基本方針っていうのは持ってきてしましましょうと、いうことで作ってあります。内容は昨年とほとんど変わっておりませんが、表現が若干変わったりしています。4原則だとかの部分については、各地区の総会等でも大事にして確認してもらえると、毎年同じことを確認していくという形にさせていただいています。

続いて、重点目標と事業計画ですけども、ここは年度ごとに変わっていく事もあるかと。公民館は、やはり地域が、地区公民館がその地域の課題を捉えて活動するという部分を大事にしていこうという大きな狙いがありまして、この重点目標に向かって自分たちの地域がどういう活動をするのかっていうのは地域で考え、地域で活動しましましょうというような形での組み方

をしてあります。この重点目標に向かったの事業計画ということで、具体的な事業計画を、その後のP8の下段から展開をしていくという形で、詳しく書かせていただいております。そのような流れで作り、レイアウト等を変えさせていただいて、公民館が大切にしていきたいことができるだけ分かり易く、また誰に向かって訴えていけばいいかを考えながら作らせていただいております。

資料No. 4、この公民館活動の基本方針、事業計画を作るにあたって、各地区の公民館から特に重点的に取り組みたいものですか、これに対しての課題や背景を出していただいて、その中で共通の課題に対して重点的に取り組むべきものをものを重点目標とし、そのための事業計画を記載させていただいているという組立になっております。以上です。

(長谷部会長)

事業計画について何かありますか？

9ページのところに、第44回飯田市民大学講座がある。そこに今年のテーマは「伊那谷の自然と文化」をテーマに運営委員会で運営すると。運営委員会はどのような方法で運営されているんですか？

(副館長)

運営委員会は、今まで運営委員をやっていた方や市民大学講座へ参加いただいている方の中で、運営委員の募集をします。やりたいというお申し出があった方に、またお声をおかけして、今の運営委員の人達と一緒にやっていただくという形で、だんだん増やしていくやり方しております。

(長谷部会長)

ご意見ありませんか？なければ、このような基本方針と事業計画で、今年度やっていただきたい、そういうふうに思います。よろしく願いいたします。

(副館長)

それでは、ご意見賜ったという形で、4月の館長会と主事会へ案として提出させていただいて、来年度の基本方針と事業計画という形とさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(長谷部会長)

以上で、諮問に答える審議委員会を終わりますが、全体的にご意見何かありますか？

(桑原委員)

成人式のことなんですけど、やっぱり20歳で成人式っていうのが方向性としてすごくいいと思うんだけど、18歳になった時に責任やリスクがあるわけでしょ。ある意味、成人式で自分たちが成人したという意識を強く持つ機会になると思うんだけど、それがやっぱり2年後になって、実はその2年間の間で、うっかりすると変な契約したりという事も起こりうるものが心配。今の高校生たちを見ていて、普通に学生の時から、そんな危険が実はあるんだというのを、どういう方法で教えてくのかなと気になっているというか、学校教育の中とか、地域でもね。

(細山委員)

地域と関わるということが成人式の一つの意義としてありますよね。これが20歳になって

からやるということは、違うんじゃないかなと。関りを持つとしたらやはり 18、19 歳あたりで、成人になる前の 18 歳過ぎたら関われるようなね。そういう、いわゆる成人、成年教育というか、そういうものは前倒して必要ではないかと思います。

(鳴海委員)

18 歳になったら大人なんだから、そういう活動に積極的に参加しなさいという働きかけを増やすというような地域との出会いの場を、成人式の前に持つと、そういう事が必要ではないかとお話を聞いて思いました。

(副館長)

先日、地域人教育で打ち合わせをしたときに、今度地域へ出ていくときに 3 年生は、みんな成人なんです。そこで、そのような部分も高校生と地域をつなぐ時の関りで何かできないかなあという話しはしています。今までは、高校生たちもそこで何か起きたとしても、責任は学校が負えればいい、保護者が負えればいい、という話だったかもしれないんですけど、3 年生はすでに成人になっていくので、学校の授業だったとしても、何かがあった時にすべての責任は、本人が負わなきゃいけないことになるので。

(細山委員)

もう一つの成人式の代わりでいうと、19 歳からですよ

(副館長)

そうですね、19 歳からですね。

(細山委員)

何か工夫して、教育の中身というか、組み立てられたり。

(鳴海委員)

高校の教員、教職員の皆さんから話を聞く機会があり、「18 歳成人」ということで、各高校では成人教育をどのようにやっておられるかという質問をしたんですけども、一般的に社会科の授業の中で成人についての話をするだけというようなことでした。もうちょっと、どこの高校も共通して、成人の時間とかの教育があってもいいのかという感じはします。公民館や地域とどう関わるかは、また地域人教育の中に入ってくると思うんですけども。

(長谷部会長)

館長さんのほうから何かありますか？

(塩澤館長)

資料の 5 ページの成人式の開催についてお話をさせていただいた資料の中に、18 歳になったときに成年学習をするということをやったとありますが、それが今の話のように、高校にお願いするっていうのは苦しいだろうなと思うんですね。じゃあ公民館でできるかって言ったら、そういうわけにもいかないだろうと。その辺の成年学習というか、権利義務について責任を取ることになるというような事について学んでもらう機会をどう保証するのか、どうとっていくのか、それはやっぱり教育委員会と考え、協議しながら、公民館が地域の側としては、こんなことができるということを検討していく必要があるだろうなあとと思います。それから、例えばその内容については、きちんと学んでおいた方がいいということについて、やはり主導してもらるのは教育委員会だろうなあって、思います。そうすると成年学習の内容と、そのいつ行う

か、誰に行くかってところも含めて大事になってくるかな、っていうふうに思います。

それから、地域でお祝いするっていう中身と、成年学習の中も含めておっしゃられている気持ちもやっぱり大事にしたいな、と今もお聞きしていたので、そんなことも成年学習の中に入ってくるのかと思います。高校三年生は受験を控えて頭がいっぱいになっているところで、そういう機会をどうやって作って行くのか、いつやったらいいのか、あるいは中学の段階でそれができないか、いろいろなケースをきちんと検討して行かなきゃいかんかな、と思っています。以上です。

(長谷部会長)

無ければ終わりにしたいと思いますが。

今回の運営審議会では、館長の諮問にいくらかでもお答えできたかどうかわかりませんが、今までの委員さんのそれぞれのご意見を尊重していただいて、ぜひ飯田の公民館の活動の参考にさせていただきたいなと申し上げて終わりにしたいと思います。お疲れさまでした。

5. 閉会